

イ. 現代の海上航路

船上からの海・島・岬等の動的景観（シークエンス景）は、江戸時代後期から明治期にかけて来日した外国人たちによって“発見された風景”（西田正憲「瀬戸内海の発見」）とされており、山頂からの俯瞰景（パノラマ景）とともに、瀬戸内海観光の醍醐味のひとつとなっている。

シークエンス景を享受できる手段として、海上交通機関への乗船は瀬戸内海を代表する観光の形態であるといえる。

現在のクルージングの形態を分類すると、次のタイプがある。

- ・定期クルージング
- ・不定期クルージング
- ・フェリー・旅客船

○中型クルージングシップ

広島港を起点として宮島を繋ぐ「銀河」が代表例であり、昼と夕方に運行されている。

このほかでは、屋形船タイプのものが、広島港周辺、新岡山港～与島間等を繋いでいる。

○不定期クルージング

小型船により小豆島や小島へのクルージングサービスが各地で展開されている。

○フェリー・旅客船

本来的には海上の交通機関としての役割を持つものであるが、乗船自体を目的としたクルージングとしても捉えることができる。

日中の運行を対象とした場合、距離によって、長距離、中距離、短距離タイプに区分される。

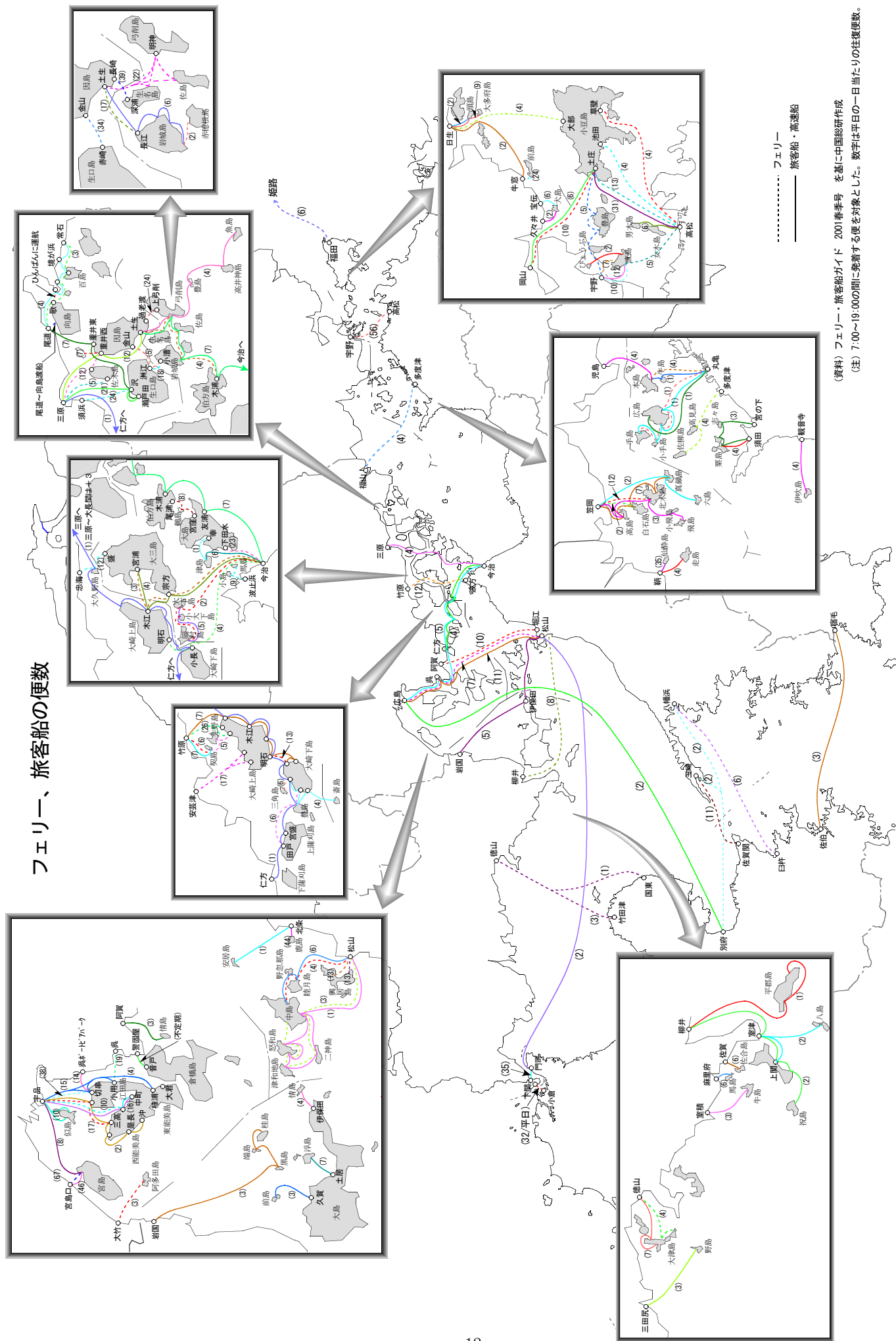
フェリー・旅客船の運行状況

長距離型	四国・九州	松山・門司
中距離型 (本島間)	中国・四国	岡山・小豆島・高松 宇野・高松 児島・丸亀 福山・多度津 三原・今治 竹原・波方 広島・呉・今治 仁方・今治 広島・呉・松山 岩国・伊保田・松山 柳井・松山
	中国・九州	徳山・竹田津 徳山・国東
	四国・九州	八幡浜・別府 八幡浜・臼杵 宿毛・佐伯
短距離型 (10往復/日以上のみ記載)	岡山県	岡山・土庄 宇野・直島 笠岡・北木島
	広島・愛媛	因島・岩城島 因島・弓削島 因島・生名島 三原・因島 三原・瀬戸田
	広島県	鞆・仙酔島 竹原・大崎上島 安芸津・大崎上島 広島・江田島 呉・江田島
	香川	高松・土庄

(資料) フェリー・旅客船ガイド2001春季号を元に中国総研作成

(注) 夜間航行を除く

フェリー、旅客船の便数



(資料) フェリー・旅客船ガイド 2001春季号 を基に中国総研作成
(注) 7:00~19:00の間に発着する便を対象とした。数字は平日の一日当たりの往復便数。

瀬戸内海沿岸において、ビジターが利用できるマリーナが「海の駅」として情報公開されている（<http://www.cgt.mlit.go.jp/marine/index.html>）おり、これらを繋いだ広域クルージングが可能な状況にある。

